

プロジェクト

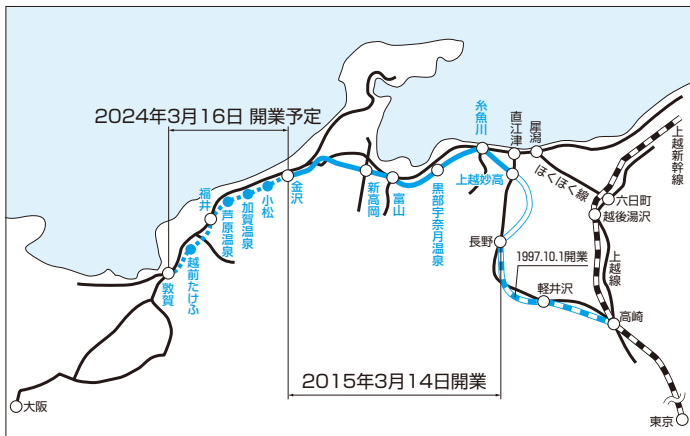
■北陸新幹線プロジェクト

北陸新幹線は、全国新幹線鉄道整備法に基づき、東京～大阪までの整備計画が定められている整備新幹線です。1997年10月1日に高崎から長野までの117kmが、そして2015年3月14日に長野から金沢までの228kmが開業しました(当社の営業区間は上越妙高から金沢間です)。

金沢から敦賀間の125km(工事区間：白山車両基地～敦賀間114km)については、2012年6月に用地・土木構造物関係の工事実施計画の認可が得られ、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が建設主体として2024年3月16日の開業をめざし、工事を進めています。

なお、開業後は当社が同区間を運営することになります。

●北陸新幹線の整備状況

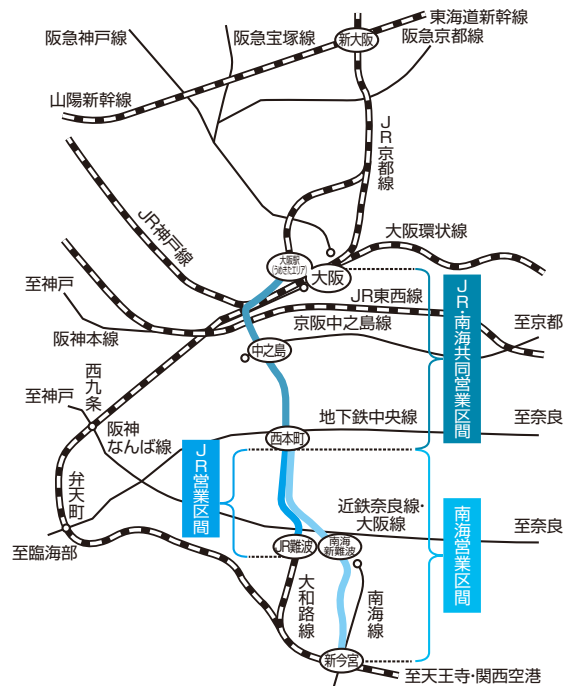


■近畿エリア関連プロジェクト

近畿エリアでは、安全・安定輸送や利便性の向上、線区価値の向上などを目的にプロジェクトを進めています。

●なにわ筋線

なにわ筋線は、2023年3月に開業した大阪駅(うめきたエリア)と、JR難波駅および南海本線の新今宮駅をつなぐ新たな鉄道路線として関西高速鉄道が鉄道施設を整備・保有し、JR西日本および南海電鉄が鉄道施設を使用して旅客営業する計画です。なにわ筋線の整備により、関西国際空港や新大阪駅へのアクセス性の向上、鉄道ネットワークの強化、大阪の南北都市軸の強化などの効果が図られることとなります。2031年春開業に向け、関係者と協力し計画を進めています。



●大阪駅周辺プロジェクト

大阪駅周辺では、東海道線支線地下化・新駅設置事業やうめきた2期地区開発計画など、大阪駅西側地区を中心に、周辺地域との一体的なまちづくりが進められています。

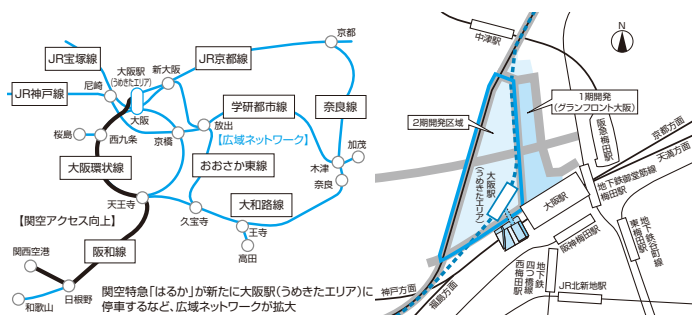
JR西日本グループでは、西日本最大のターミナルである大阪駅が、将来にわたって大阪の玄関口として利便性が高く、賑わいのある拠点となるべく、2011年には大阪ステーションシティをグランドオープンし、2019年12月に大阪駅西側地区の開発に着手しました。

(1)東海道線支線地下化・新駅設置

大阪駅北地区のうめきたエリアでは、周辺地域との一体的なまちづくりが進められています。その西側を縦断している東海道線支線では、まちづくりと一体となって約1.7kmの地下化により、踏切の除却および交差道路の安全性向上を図りました。

あわせて、大阪駅に近接して新駅を設置し、梅田エリアから関西国際空港へのアクセスおよび広域ネットワークの強化に大きく貢献します。

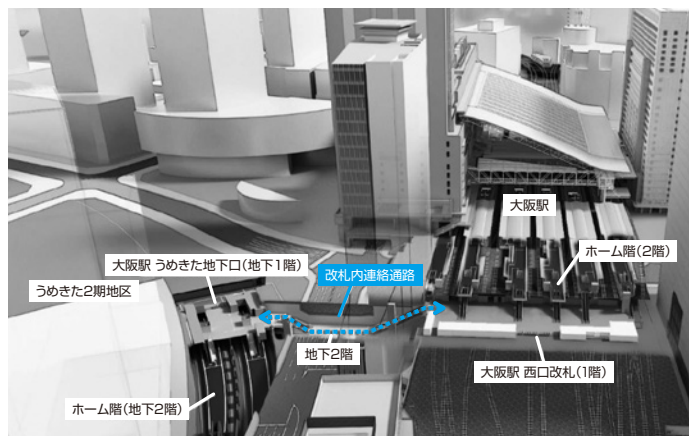
地下化は2023年2月に完了、2023年3月に大阪駅(うめきたエリア)として開業しました。



(2)西口改札整備

大阪駅の混雑緩和、新たなバリアフリールート整備および西側地区へのアクセス性向上の観点から、各ホームにアクセス可能な新たな改札口を西側高架下に整備します。

西口改札周辺には、ご利用の多様なニーズに対応する商業ゾーンを開発し、快適で魅力あふれる駅空間を創出します。あわせて、同高架下にバスターミナルを新設し、大阪駅の交通結節機能のさらなる強化を図ります。



(3)新駅ビル開発「イノゲート大阪」

本計画は、大阪駅西側開発エリアの玄関口に位置し、周辺施設とは2階連絡通路で接続することで、歩行者回遊動線の起点となり非常に高い利便性を有します。また、2023年3月18日に供用開始したJR大阪駅の新改札口(西口)と直結するほか、全7駅13路線の快適なマルチアクセスに対応しています。さらに、同日開業した特急「はるか」等が乗り入れる大阪駅(うめきたエリア)とも接続し、関西国際空港とのアクセスが便利です。2031年には「なにわ筋線」の開業により、JR大阪駅から関西国際空港までの所要時間が短縮され、国内だけでなく、海外へのアクセスも向上し、グローバルビジネスをサポートします。

開業は、2024年秋を予定しています。

INOGATE OSAKA



(4)大阪駅西地区開発計画「JPタワー大阪」

日本郵便株式会社、株式会社JTbおよびJR西日本グループによる共同開発として、旧大阪中央郵便局敷地を含む大阪駅西地区を開発します。回遊性の高い歩行者ネットワークを整備することにより、JR大阪駅北側エリアなど、周辺との新たなつながりを形成するほか、西日本最大級のオフィスや、商業施設と劇場を設けることで、商業、文化のにぎわいのある街並みを形成します。

あわせて、バンケット施設も有するホテル機能を導入し、2025年の大阪・関西万博に向けてさらに高まる需要への対応を図ります。

竣功は、2024年3月を予定しています。

JP TOWER
O S A K A

南東広場イメージ (JR大阪駅南側から)



●三ノ宮新駅ビル開発

神戸三宮ターミナルは1日の乗降客数が70万人を超え、広域アクセスへの神戸空港や山陽新幹線の新神戸駅にも至近であり、神戸エリアの重要なハブとなっています。本計画では、「えき~まち」空間の実現に向けて、

- ・駅と駅をつなぐ、見通しの良くわかりやすい乗換動線の確保
- ・「えき」と「まち」を一体的な空間とするため、まちに向かい開かれた空間の確保
- ・広場空間の整備による人のための待合・イベント空間の確保
- ・新駅ビルの低層部と三宮クロススクエアとが一体となったにぎわい空間の創出などを図り、神戸の玄関口にふさわしい魅力的な空間の創出をめざします。

新駅ビルにおいて、商業施設、ホテル、オフィス、広場空間を導入し、JR西日本グループ・URとの共同事業として2023年度の着工をめざします。

※パースはイメージであり、今後の設計および関係機関との協議により変更となる場合があります。



●弁天町駅改良

Osaka Metro中央線への乗換結節点となる大阪環状線「弁天町駅」の改良により、万博来場者輸送における乗換時の安全性を向上させるほか、既存施設の老朽化やバリアフリー課題の解消を実現します。万博開催前の2025年春の工事完成をめざします。

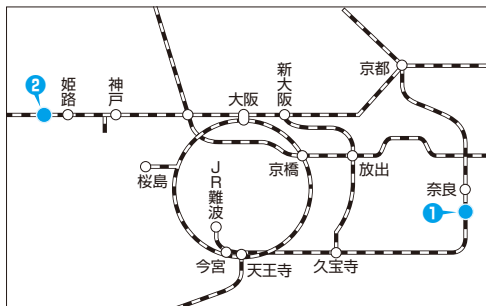
- ①新駅舎の整備
 - ・既存の南北改札の間に位置する場所に新駅舎を整備し、新改札口(仮称：新南口・新北口)を設置
 - ・昇降設備(エレベーター・エスカレーター)のほかバリアフリースイールの設置によるバリアフリー機能の向上
- ②Osaka Metro との乗換円滑化
 - ・Osaka Metro 弁天町駅東口改札まで、段差なくフラットに乗換可能とする「連絡通路」の整備(Osaka Metroとの共同事業)
 - ・連絡通路と接続する、JR弁天町駅内回りホーム改札の新設(仮称：内回りホーム口)
- ③ホーム柵の整備
 - ・ホームの安全性を向上させるため、万博開催までにホーム柵を整備



※パースはイメージであり、今後の設計および関係機関との協議により変更となる場合があります。

●新駅設置

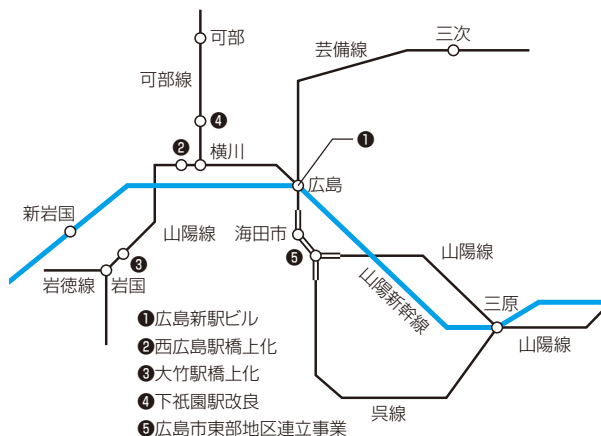
当社では、駅を核とした地域のまちづくりに寄与するとともに、お客様の利用しやすい輸送機関となるよう、新駅設置工事を進めています。



線名	駅間	設備概要	開業予定
① 大和路線	奈良郡山	高架下駅舎相対式ホーム2面	未定
② 山陽線	姫路英賀保	橋上駅相対式ホーム2面	2026年春

■広島エリア関連プロジェクト

広島エリアでは、まちづくりと一体となった橋上化や駅改良、また、広島駅周辺の拠点性向上を目的としたプロジェクトを行っています。



●広島新駅ビル

新駅ビルは、広島・瀬戸内の玄関にふさわしく、広島に新たな賑わいや交流、感動を創出する施設となることをめざし、商業・ホテル・駐車場を導入します。

特に、駅ビル2階の路面電車が進入する空間は、広島駅中央口改札や新幹線口改札から段差なくフラットにつながり、駅と歩行者空間、商業施設が一体となった魅力的な空間を創出します。また、駅ビル1階に整備される駅前広場ともつながり、ご利用しやすい公共交通ネットワークを形成します。

2025年春の開業に向け、2021年3月より新駅ビルの工事に着手しています。

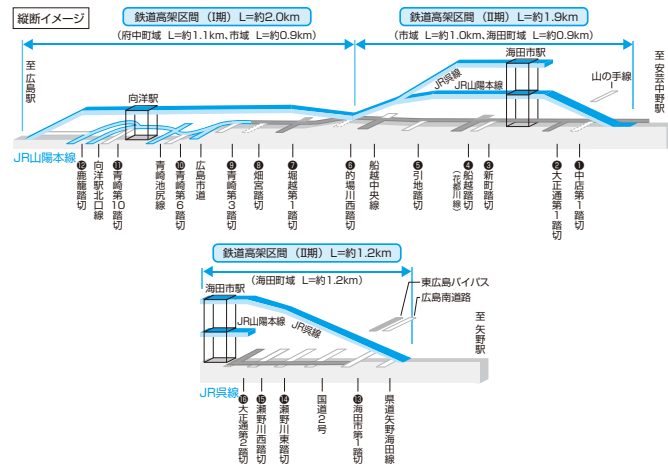


※パースはイメージであり、今後の設計および関係機関との協議により変更する場合があります。

●広島市東部地区連続立体交差事業

広島市東部地区連続立体交差事業は、広島都市圏東部地域の交通の円滑化や市街地分断の解消によるまちづくりを目的とし、広島県、広島市が行う都市計画事業です。

当社は、踏切除却による安全性向上、街の分断の解消によるまちづくりへの貢献等の観点から事業に寄与したいと考えています。



■大阪・関西万博へ向けた取り組み

2025年大阪・関西万博の開催に向けて、当社グループでは、万博会場へお越しになるお客様を安全・快適にお運びするために、万博アクセス輸送の検討を進めているほか、万博がめざす未来社会の実現に向けて、大阪駅(うめきたエリア)を中心とした「JR WEST LABO」を推進することにより、万博の成功に貢献します。

【参考】大阪・関西万博概要

- テーマ いのち輝く未来社会のデザイン
- コンセプト People's Living Lab (未来社会の実験場)
- 会場 夢洲(大阪市此花区)
- 開催期間 2025年4月13日～10月13日



提供：2025年日本国際博覧会協会

●万博アクセス輸送

お客様の安全確保を最優先に、万博アクセス輸送を支える交通事業者として、次の取り組みを計画しています。

(1) JRゆめ咲線ルートにおける取り組み

万博会場への主要アクセスルートの一つに位置づけられる、JRゆめ咲線ルート(鉄道+シャトルバス)の輸送力増強や利便性向上に取り組めます。

① JRゆめ咲線

- ・JRゆめ咲線の輸送力を増強(最大12本/時)
- ・新大阪駅から大阪駅(うめきたエリア)を経由し、桜島駅までの直通列車を設定

② 桜島駅からのシャトルバス輸送

- ・シャトルバスの運行に向けた、万博協会との連携

③ 桜島駅

- ・シャトルバスへの乗換時の安全性を向上させるため、駅改良を実施(会期中限定)

④ 西九条駅

- ・ホームの安全性を向上するため、ホーム柵を整備

(2) 弁天町駅改良

Osaka Metro中央線との乗換結節点である弁天町駅においては、乗換時の安全性を向上させるほか、既存施設の老朽化や不完全なバリアフリー環境等の課題解消を実現します。

① 新駅舎の整備

- ・既存の南北改札の間に位置する場所に新駅舎を整備
- ・新改札口(仮称：新南口・新北口)を新設するほか、昇降設備(エレベーター・エスカレーター)やバリアフリートイレも設置

② Osaka Metroとの乗換円滑化

- ・Osaka Metro弁天町駅東口改札と段差なく乗換できる連絡通路を整備
- ・連絡通路へ接続するホーム改札(仮称：内回りホーム改札口)の新設

③ ホーム柵の整備

- ・ホームの安全性を向上させるため、ホーム柵を整備



弁天町駅新駅舎イメージ

(3) 持続可能な万博開催に向けた取り組み

JRゆめ咲線ルートを脱炭素に資する「ゆめ咲グリーンルート」として運行し、脱炭素に資する取り組みを推進します。

- ① JRゆめ咲線の列車ならびに直通臨時列車のカーボンニュートラル化
- ② 脱炭素に資するシャトルバスの運行

● JR WEST LABO

「JR WEST LABO」では以下のめざす姿の実現に向け、「イノベーションの実験場」としてさまざまなパートナーとの共創によりオープンイノベーションを加速させ、新たな価値創造にチャレンジします。

まずは、2023年春に開業した大阪駅(うめきたエリア)を「未来社会の実験場」として位置づけ、大阪・関西万博の参加型プログラムである「TEAM EXPO 2025」プログラムへ参画し、大阪・関西万博のテーマでもある「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現に貢献していきます。

- ① デジタル×リアルが生み出す新たな価値(サービス)
- ② 人と技術が融合し、誰もが参画し活躍できるフィールド
- ③ お客様と共に進める環境負荷軽減の取り組み



JR WEST LABO イメージ

■TWILIGHT EXPRESS みずかぜ 瑞風

西日本に数多くある日本の原風景とも呼べる場所を舞台に、山陰・山陽を運行するTWILIGHT EXPRESS 瑞風。ホテルのような上質さと心休まる懐かしさを感じる車両、美しくうつろいゆく車窓、食の匠が監修する沿線の多彩な食材を使った料理、沿線の豊かな自然や歴史、文化。そして、沿線のみならずよるあたたかいおもてなしと、一流のホスピタリティと美意識をまとったクルーたちによるご案内。お客様お一人おひとりに、ここでしか味わえない特別な列車の旅をご提供いたします。

(ウェブサイト) <https://twilightexpress-mizukaze.jp/>



●ネーミングとロゴマーク

「瑞風」とはみずみずしい風のことであり、吉兆を表すめでたい風という意味も併せ持ちます。「瑞穂の国」と呼ばれる美しい日本に、新しいトワイライトエクスプレスという風が幸せを運んでくる、そんな情景をイメージしました。ロゴマークは、MIZUKAZEの“M”を山並みに見立て、吹き抜けていく風をトワイライトエクスプレスの象徴である天使で表現しました。

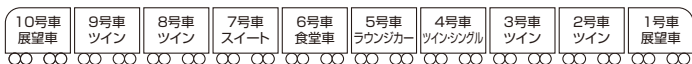


ロゴマーク

●車両

●編成

ザ・スイート1両、ロイヤルツイン(ユニバーサル対応)・ロイヤルシングル1両、ロイヤルツイン4両、食堂車1両、ラウンジカー1両、展望車2両(編成両端)からなる10両編成です。



●動力方式

ハイブリッド方式(ディーゼル発電機で発電した電力とバッテリーアシストによるモータ駆動)です。

●客室

3タイプの客室(ザ・スイート、ロイヤルツイン、ロイヤルシングル)を設け、定員は最大34名です。

●展望車

空まで望むことができる開放的な展望室から雄大な景色や星空といった車窓をお楽しみいただけるとともに、展望デッキでは沿線の風を感じていただけます。



展望デッキを含むエクステリア

●世界有数の客室

世界的にも希少なザ・スイートの客室は1両1室の広いスペースで、エントランスやプライベートバルコニー、リビング・ダイニング、寝室、バスタブ付きの本格的なバスルームを設置しています。

●建築、工業デザイン、食の第一人者が監修

京都迎賓館をはじめホテルや迎賓施設等の設計に携わってきた浦一也氏、新幹線をはじめ鉄道車両のデザインを手がけてきた福田哲夫氏や、食の權威で和洋を問わず食に造詣が深い門上武司氏に監修していただきました。

●運行開始 2017年6月17日(土)

●日程

1泊2日の片道タイプと2泊3日の周遊タイプをご用意し、1日1回立ち寄り観光を実施します。

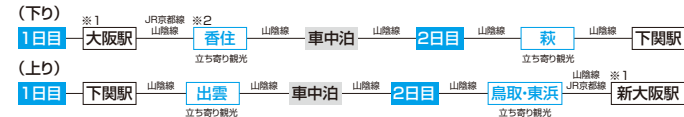
●始発・終着駅

大阪・新大阪、下関の各駅から始まり、下関、新大阪・大阪に至ります。

●運行ルート・コース ※状況により、変更する場合があります。

山陰本線経由と山陽本線経由、計5コース

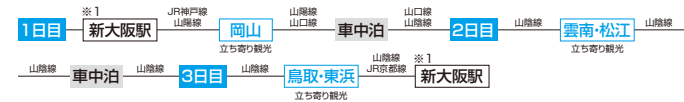
●山陰コース 1泊2日 片道タイプ



●山陽コース 1泊2日 片道タイプ

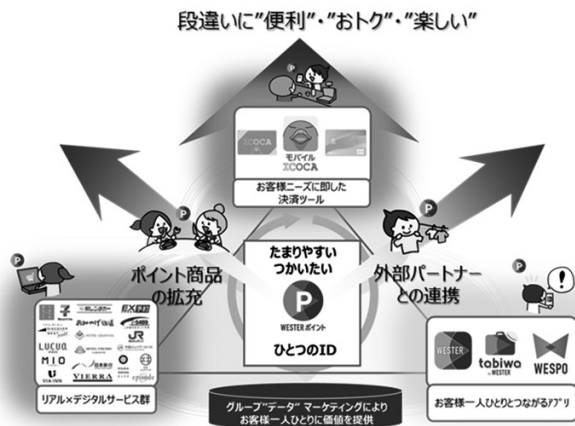


●山陽・山陰コース 2泊3日 周遊タイプ



※1 2023年8月から京都駅に変更になります。
※2 2023年8月~9月、2024年3月~4月の立ち寄り観光は城崎温泉になります。

■WESTERがめざすサービス像とは



WESTER会員・WESTERポイントを起点に、お客様との接点となるアプリ、決済ツール、展開しているさまざまなサービスをつなげ、リアルでもデジタルでもお客様の生活に寄り添うこと、お客様一人おひとりに合ったサービスを提供し続けることで、段違いに「便利」で「おトク」で「楽しい」WESTER体験を提供します。

さらに、グループ外の事業者や、地域との連携を深め、ひと、まち、社会とつながることをめざします。

■WESTERポイント

2023年3月に開始した、JR西日本グループ共通のポイントサービスです。鉄道のネット予約、ショッピングセンターでのお買い物、ホテルでの宿泊など、普段の暮らしや旅行などさまざまな場面でポイントがたまり、つかうことができます。2023年4月現在、約600万人の会員様にご利用いただいています。

今後はグループ外も含めてご利用いただける店舗・サービスを増やすことで、さらにたまりやすく、つかいたいポイントサービスをめざします。



■移動生活ナビアプリ「WESTER（ウェスター）」

お客様との日常の接点となる、移動生活ナビアプリです。最寄り駅の時刻表やJR西日本の運行情報にアクセスできる機能、WESTERポイントが「たまる」「つかえる」機能、クーポンやスタンプラリーなどお出かけが楽しくなる機能などをはじめ、当社グループ・社外のさまざまなサービスと連携することで、お客様と24時間365日つながり続けます。

【主な機能】

- ICCOA残高** 日常生活のさまざまな場面でご利用いただいているICCOAのチャージ残高を、お使いのスマートフォンにICCOAをかざすだけで簡単に確認ができる機能です。さらにカモノハシのイコちゃんが残高に応じてさまざまな表情を見せるので、楽しみながらICCOAチャージ残高をご確認いただけます。
- マイ駅** 「マイ駅」を登録すると直近の列車の時刻表がアプリのホーム画面で確認できます。またリアルタイムに遅れ情報を反映した時刻表を反映できる機能もあります（JR京都線全線の一部のみ）。また列車がどこにいるのか、近くのおでかけスポットもすぐ確認できます。
- 経路検索** 日本全国の私鉄やバスなどを含む経路検索ができ、検索結果からe5489やEXサービスなどのネット予約もスムーズにご利用いただけます。
- 予約** e5489やEXサービスなど鉄道の切符の購入のみならず、宿泊、飲食、レンタカーなどのネット予約ができます。

■tabiwa by WESTER

せとうち・北陸エリアにおいて、安心・便利・おトクに観光を楽しむことができるツールとして、鉄道・バスなどが乗り放題の周遊バス、観光・グルメのチケット購入やおトクなクーポン、旅先のスポット情報、経路検索など、旅に必要なサービスを展開しています。

西日本エリア地域の活性化が当社グループの長期持続的な成長につながるとの認識のもと、データやデジタル技術を駆使し、観光需要やヒトの移動の創出に取り組んでいきます。

